

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部令和5年度分含む」)

静岡県立清水南高等学校中等部

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	13
学校施設の概要	14
在籍生徒調	16
入学志願者及び入学者数調	17
生徒の状況	18
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	19
預金調	19
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	20
主要備品調	22
職員調	23
職員の年齢調	25
健康管理	26

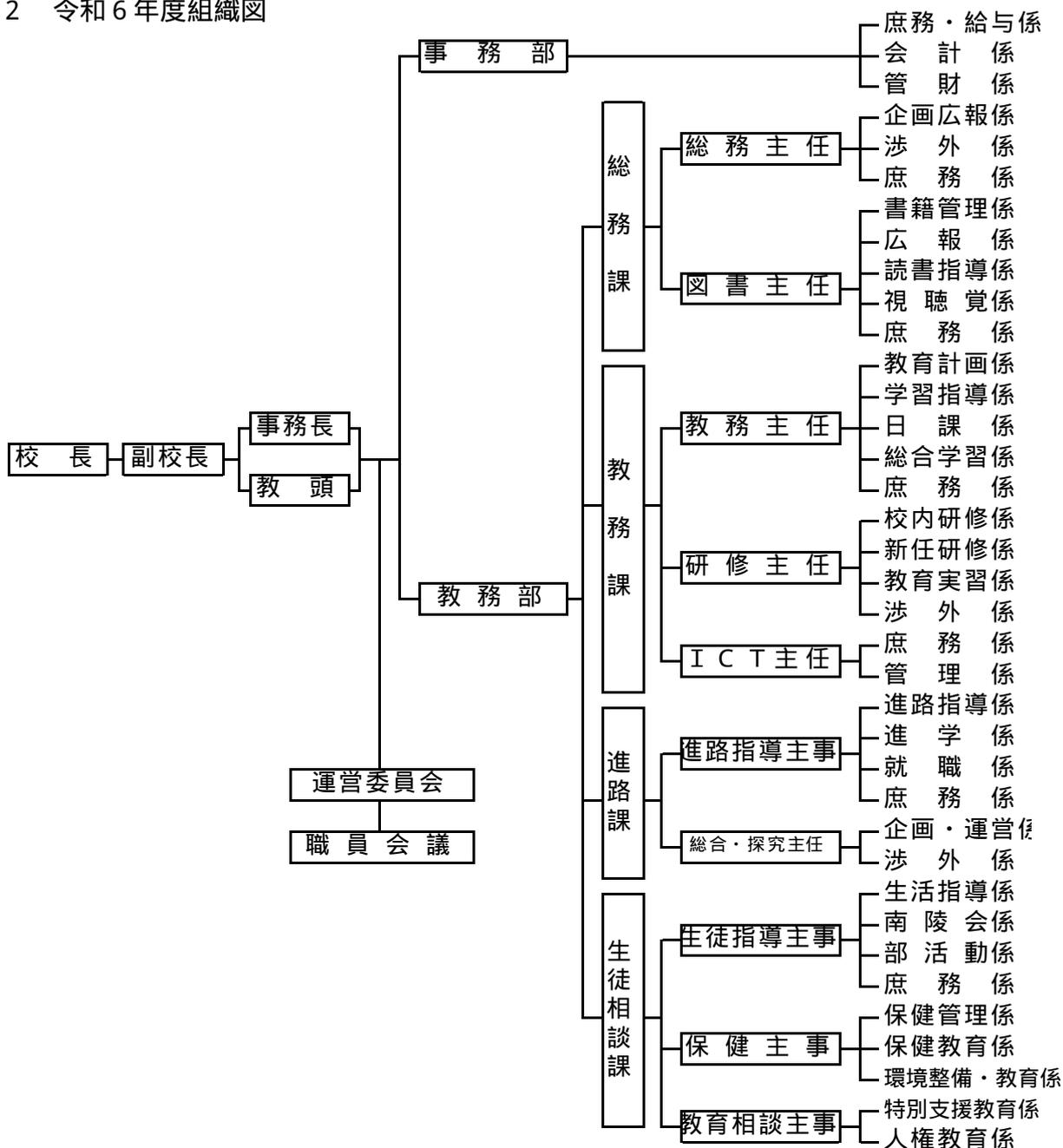
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

- 平成15年4月1日 静岡県条例第46号静岡県立学校設置条例の一部を改正する条例により静岡県立清水南高等学校に中等部が設置される。
静岡県教育委員会規則第21号により静岡県立中学校学則が制定され、中等部の募集定員が80人となる。
- 平成15年4月8日 静岡県立清水南高等学校中等部開校式及び第1回入学式を行う。
2学級80人の1年生が入学
中高一貫教育開始
- 平成17年4月1日 政令指定都市移行により静岡市清水区折戸三丁目2番1号に住居表示変更
- 平成20年4月7日 静岡県立清水南高等学校中等部第6回入学式を行う。
開校6年目を迎え、1期生が高校3年生となる。
- 平成21年3月2日 静岡県立清水南高等学校卒業式を行う。
1期生が卒業
- 平成23年4月1日 中等部の募集定員が120人となる。
- 平成25年11月5日 創立10周年記念式典挙行
- 令和5年4月1日 中等部の募集定員が105人となる。

2 令和6年度組織図



< 各委員会 >

運営委員会・中高一貫教育推進委員会	職員安全衛生委員会
教育課程検討委員会	学校保健委員会
「表現」企画実施部会	学校施設整備委員会
特進クラス検討部会	学校評価委員会
学校行事検討委員会	特別支援教育検討委員会
部活動検討委員会	いじめ防止等対策推進委員会
校則・制服検討委員会	コンプライアンス委員会
	情報セキュリティ委員会

3 目指す学校像 令和6年度学校経営計画書

(1) スクール・ミッション

世界文化遺産のある三保の地で、普通科と芸術科を併置した県立中高一貫校として、表現活動や探究活動及び芸術教育を通じて、高い知性と豊かな感性・表現力を備えたグローバル人材の育成を目指す。

(2) 目指す学校像（スクール・ポリシー）

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本校では卒業までの6年間でこのような力を身に付けます</p> <p>【高い知性と思考力】</p> <p>○よりよい社会を築くための高い知性と主体的に行動する力</p> <p>【豊かな感性・表現力】</p> <p>○未来を切り拓くための豊かな感性・表現力と創造する力</p> <p>【地域・国際社会に貢献】</p> <p>○予測困難な時代をしなやかに生き抜き、社会に貢献するために、他者を認め、他者と協働し、物事に粘り強く取り組む力</p>	<p>本校では6年間でこのような学びを行います</p> <p>【高い知性と思考力】</p> <p>○個別最適な学びに対応した魅力ある授業づくりを推進し、学力向上に取り組めます。</p> <p>【豊かな感性・表現力】</p> <p>○国内外の芸術等に触れる体験的な学習や言語・身体を使った表現活動を推進します。</p> <p>【地域・国際社会に貢献】</p> <p>○6年間を見通したキャリア教育と自己理解や他者理解を深める総合的な学習(探究)に取り組めます。</p> <p>○生徒が主体的に取り組む、自己有用感を高める学校行事と部活動・生徒会活動等を推進します。</p>	<p>本校ではこのような生徒を求めています</p> <p>○高い学習意欲を持ち、探究心旺盛な生徒を求めます。</p> <p>○授業や学校行事に自ら進んで取り組み、課題を解決するために仲間と協働できる生徒を求めます。</p> <p>○規則正しい生活と学習習慣を身に付けており、目標に向かって努力し続ける生徒を求めます。</p>

普通科と芸術科を併せ持つ県立中高一貫校として、6年間の教育活動を通し、高い知性と豊かな感性・表現力を備え、国際社会に貢献できる人材を育成する。

4 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

（評価はA B C Dの4段階、ゴシックは重点項目）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	新学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	A	A	今後も、継続して取り組んで欲しい。
		授業公開週間実施回数：年間3回 外部講師による講演満足度：80%	A	B	研修を立案する時に、研修の目的に合致した講師の選定をし、目標の設定を明確に行って欲しい。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	B	B	なぜ学習しなければならないのかを生徒が納得するように伝えていく必要がある。
		校内研修での学びを生かして授業改善に取り組んだ教員の	A	B	今後も、取り組んで欲しい。

		割合：80%			
イ	中高6年間を見通したキャリア教育の充実を図る。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	A	A	今後も、継続して取り組んで欲しい。
		講演、講義等の回数：年間合計10回	A	A	計画的な実施と内容の充実に努めて欲しい。
		大学、企業等の訪問・見学等回数：年間合計10回	A	A	計画的な実施と内容の充実に努めて欲しい。
ウ	自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%	A	A	他者との関わり合いの中で、生徒の自己有用感が高まる活動をより進めて欲しい。
		「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	A	A	挨拶の必要性を生徒に理解させた上で、場を提供して欲しい。先生方から積極的に挨拶できるといい。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回	B	B	年間の目標でなく、学期に1～2回にはいかがか。
		長期欠席生徒(年間欠席30日以上)及び転退学者：0人	D	C	学校は生徒、保護者への対応をしているので、Dではない。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	A	A	昨年度の値より改善していて、よかった。
		「保健だより」の発行：年間12回	A	A	問題なし。
エ	学校行事、部活動等の充実を図るとともに、アカデミック・ハイスクールの取組を推進し、豊かな感性や表現力を育てる。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	A	A	今後も、継続して取り組んで欲しい。
		読書活動の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上	A	A	ビブリオバトルが読書活動の充実に結びつくよう取り組んでいって欲しい。
		「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%	A	A	次年度は目標を80%としてはいかがか。
		研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上	A	A	問題なし。
		「表現」で「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	B	A	生徒が身に付けた力を発揮する場面を多く設定していって欲しい。
		芸術鑑賞、校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計10回	A	A	芸術科の生徒にとっては発表する機会はあればあるほどいい。
		美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回	A	A	芸術科の生徒にとっては発表する機会はあればあるほどいい。

オ	郷土文化への理解を深めるとともに、地域社会や産学官の連携を推進する。	奉仕活動や社会貢献活動に参加したと答える生徒の割合：60%以上	C	C	目標は、生徒が地域社会等と連携して、学ぶことであるならば、探究活動や保育実習での活動も含まれる。成果目標の設定の視点を変えてみてはいかがか。
		海外交流行事等実施：1回以上	A	A	問題なし。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部50%、高校45%	C	C	Jアラートの対応訓練等も行ってはいかがか。地域防災への参加等は、学校の教育活動の範囲を再考する必要がある。
		土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	A	A	Xなどを有効に使って、今後も継続して行って欲しい。
		平常の清掃 学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	A	A	問題なし。
カ	安心・安全な教育環境の整備、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	A	A	問題なし。
		講話や研修等の取組：月1回以上	A	A	今後も継続して行って欲しい。
		夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数を前年度より減少させる	A	A	今後も継続して行って欲しい。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了	A	A	今後も継続して行って欲しい。

(2) 令和6年度の取組目標・達成方法・達成目標（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	新学習指導要領に基づいた授業改善を進め、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	学年部・教科間が連携しながら個別最適な学びに対応した授業及び課題を工夫し、家庭学習の習慣を確立させる。	週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80% 「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%
		ICT活用を含む教員研修や授業評価等を用い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。	授業公開週間等の取組に満足する教員の満足度：70% 職員研修の外部講師による講演に対する教員の満足度：70%
			校内研修での学びを生かして授業改善に取り組んだ教員の割合：80%

イ	中高6年間を見通したキャリア教育の充実を図る。	6年間を見通したキャリア教育に基づき、自らの進路希望を実現する。	「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%
		外部講師による講演、講義等を開催し、自分の将来を見通す機会とする。	講演、講義等の回数：年間合計10回
		大学、研究機関及び企業等を訪問し、外部人材を活用したキャリア教育を推進する。	大学、企業等の訪問・見学等回数：年間合計10回
ウ	自己有用感を高めるとともに、教育相談体制を充実させ、心身ともに健康な生徒を育成する。	特別活動等を通じて、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進する。	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%
		学校生活のルールを守り、正しい判断・行動をとれるようにする。	「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%
		悩みを抱えた生徒、保護者が相談しやすいように、相談室の運営を充実させる。	教員等による交通安全街頭指導の実施：学期に1回
			長期欠席生徒(年間欠席30日以上)及び転退学者：0人
		健康維持・増進について生徒の意識を高める指導を行う。	「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%
エ	学校行事、部活動等の充実を図り、豊かな感性や表現力を育てる。	部活動や読書活動を通して、心身の成長を図り、豊かな感性や徳のある人間性を育む。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上
		魅力ある学校行事を運営し、学校生活の満足度を高める。	読書活動の取組による生徒の充実度：70%
			図書館貸出数：4000冊以上
		「表現」の授業内容を工夫し、生徒の能力向上を図る。	「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：80%
		国内外の芸術等に触れる機会を通じて、芸術科生徒の専門的な知識、技能の一層の向上を図る。	研修旅行で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上
「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%			
オ	郷土文化への理解を深めるとともに、地域社会や産	地域、企業、大学、研究機関等と連携し、積極的に社会に関わる意識を醸成する。	社会貢献活動や協働活動に参加したと答える生徒の割合：60%以上
		地域と連携した防災教育を推進する。	海外交流行事等実施：1回以上
			実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部50%、高校(高3除く)45%

	学官の連携を推進する。	積極的な広報活動を通じ、開かれた学校づくりを目指す。	土曜オープンスクール参加者数：年間 1,200 人 学校公式 SNS 発信数：年間 250 件
		校舎内外の美化を推進する。	平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底
力	安心・安全な教育環境の整備、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	計画的で、適切な予算執行に努める。	例月指導検査、会計・物品事務指導検査における文書指示、注意事項：0 件
		安全・安心な教育環境を維持する。	学校施設、管理財産の安全確認の実施：月 1 回以上
		時間外勤務削減等の業務環境の改善を進める。	夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数の割合を前年度より減少させる
			職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了

5 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 オンリーワン・ハイスクール事業テーマ「SPACと連携した演劇科設置に向けたカリキュラム研究」 2 職員の授業改善、生徒の学力向上への取組 3 芸術へのさらなる理解を深める活動 4 地元企業の活動への協力 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「アカデミック・ハイスクール」の研究指定を受け、研究最終年である令和5年度は高校普通科、芸術科における「総合的な探究の時間」(探究と表現)においてSPACと連携し、演劇的要素を取り入れた授業実践を試みた。 2 前年度までの学力向上プログラムを継続し、資格・検定試験に積極的に参加するように生徒に働きかけ、また、教員のICTを活用した授業改善を推進した。 3 中2、3年生はSPACの「薔薇の騎士」、高1年生は劇団四季のミュージカル「ウィキッド」、高2年生はSPACの「伊豆の踊子」、芸術科1年生が新国立劇場オペラ「エフゲニー・オネーギン」を鑑賞した。 4 清水特別支援学校との交流、地元企業「駿河湾フェリー」、「はごろも教育財団」との協働や県立図書館、静岡県舞台芸術劇場、静岡県教育会館等でのコンサートを行った。
令和6年度	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を図る「行きたい学校づくり」推進事業 探究学習推進(連携校) 2 新学習指導要領に基づいた教員の授業改善の推進 3 豊かな感性や表現力の育成 4 地域社会や産学官との連携の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 3年計画の探究学習推進の1年目として、本校の探究テーマ「"Who do you want to be?" ~あなたはどんな人になりたい? ~」を基に、国際理解教育や国際交流、地域・企業と連携した講演会を実施した。また、清水東高校がセンター的機能を果たす「探究コンソーシアム」での情報共有の機会を活用し、探究学習及び地域連携の充実に取り組んだ。 2 本校の教員研修テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」の最終年として、5月、6月、10月に相互授業参観、8月「対話が生み出す温かみと深みのある授業づくり」、9月「ICT活用による授業改善」の校内研修を通して、教員の授業改善に取り組んだ。 3 豊かな感性や表現力の育成を目的とする「芸術探究」では、中2、3年生はSPACの「メナム河の日本人」、高1年生は劇団四季のミュージカル「アナと雪の女王」を鑑賞した。 4 探究学習や授業では、地域や海外と協働する機会を持った。芸術科は清水特別支援学校との交流、静岡県教育会館でのコンサート、静岡県舞台芸術劇場で学習成果発表を行った。

6 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

職名 区分	本務職員						本 務 計	臨時・会計年度任用職員					合 計	
	教育職員			行政職員				教 諭 (臨)	養 護 教 諭 (臨)	非 常 勤 講 師	ス ク ー ル サ ポ ー ト	部 活 動 指 導 員		任 用 計 年 度
	教 諭	養 護 教 諭	小 計	主 査	主 任	小 計								
転出者	5	1	6	1		1	7							7
退職者								2	1	2	1	2	8	8
転入者	5	1	6		1	1	7							7
新任者								2		1			3	3
差引増減				1	1				1	1	1	2	5	5

(2) 現員数(令和7年4月1日)

職名 区分	本務職員									本 務 計	臨時・会計年度任用職員				合 計
	教育職員					行政職員					教 諭 (臨)	非 常 勤 講 師	学 校 医 等	任 用 計 年 度	
	校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	小 計						
男	(1)	1 (1)	10 (8)		11 (10)			1	1	12 (10)	2	1		3 (5)	15 (15)
女			6 (5)	1	7 (5)	(1)	(2)	(1)	(4)	7 (9)		3		3 (1)	10 (10)
計	(1)	1 (1)	16 (13)	1	18 (15)	(1)	(2)	(1)	(4)	19 (19)	2	4		6 (6)	25 (25)

()は高校籍の職員で中等部との兼務(外数)

(3) 健康管理について

ア 職員の健康管理については、日頃から声を掛け、全職員にストレスチェックを行った。また、ストレスカウンセリングなどを紹介した。生活習慣病検診、人間ドック等を積極的に受け、生活習慣病等の早期発見に努めながら、学校医や養護教諭の指導・助言をもとに、管理職からも積極的に声掛けを行った。職員研修では、職場の健康増進プログラムとして講師を招き「ゼロトレ」を行った。

イ 職員安全衛生委員会が中心となり、安全かつ健康的な職場環境の向上に努めるとともに、職員を対象に校内の環境についてのアンケートを実施し、職場環境の向上に努めた。

< 令和6年度の職員安全衛生委員会の主な内容 >

- 1 年間計画について
- 2 職員トイレ清掃について
- 3 疲労蓄積度チェック・熱中症について
- 4 環境衛生検査結果等の検討・職場改善調査結果の検討
- 5 健康づくり研修実施
- 6 ストレスチェックの実施、結果について
- 7 休校明けの生徒の心のケア
- 8 環境衛生検査結果の報告
- 9 安全点検について
- 10 健康診断再検査の呼びかけ
- 11 救急法講習会について
- 12 危険予測グループワーク
- 13 今年度のまとめ

(4) 教職員の研修について

ア 研修の目的

「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」をテーマとし、各年度に重点項目を設定しながら令和3年度から4年間で研究に取り組み、教員の授業改善を推進する。

イ 研修内容及び成果

(ア) 重点的取組事項・指導計画の作成及び実践

令和3年度から4年間の実施計画を作成し、令和6年度も引き続き計画に基づいて各組織、個人が具体的に取組んだ。

(イ) 訪問指導（定期訪問）

令和6年度は「効果的なICT活用による授業改善」をテーマとして、指導主事の講義、教科別の協議等を行い、県総合教育センター指導主事から指導・助言を受けた。

(ウ) 校内研修会

【令和5年度】

5月9日	全体研修	・防災計画・危機管理マニュアル読み合わせ ・生徒理解のための情報共有
8月3日	夏季職員研修	(全体) ・講話「中高の授業改善に資するアクチュアル・ラーニングタイムの最大化」講師: 都留文科大学教授 野中潤氏 (教科別) ・「ロイロノート活用研修」
9月12日	定期訪問	(訪問教科)(中)数学、(高)理科、英語 ・研究授業および教科別協議 (全体研修) ・講義「授業改善のための学習評価」

2月9日	公開授業	・ 中等部授業づくり研究会
------	------	---------------

【令和6年度】

5月7日	全体研修	・ 研修年間計画の共有 ・ 生徒理解のための情報共有 ・ 防災計画、危機管理マニュアル読み合わせ
8月5日	夏季職員研修	・ 人権教育 講義「いじめについて」 ・ 授業リサーチ結果の共有 ・ 講義・演習「対話が生み出す温かみと深みのある授業づくり」
9月27日	定期訪問	< 訪問教科(中)英語、(高)数学、芸術(音) > (訪問教科) ・ 研究授業および教科別協議 (全体研修) ・ 講義「効果的なICT活用による授業改善」
2月13日 (予定)	公開授業	・ 授業づくり研究会 < 提案授業(中)英語、(高)数学、公民 >

(エ) 授業改善の取組

全教員による夏季の職員研修会と年3回の相互授業見学(「ちょっと見週間」「ちゃんと見週間」)を計画・実施した。ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組んだ。

ウ 課題

令和3～6年度の研修テーマを「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」とし、令和3～5年度は「主体的に学習に取り組む態度を評価するための工夫」、令和6年度は「対話が生み出す温かみと深みのある授業づくり」に重点をおき、学習者(生徒)の思考が深まる授業づくりについての研修を行った。

中高一貫教育校としての強みを生かし、授業参観や評価の在り方について授業実践をもとに中等部と高校の教員が議論し、授業改善を進めた。県内外の教員に参加を呼び掛けて、授業づくり研究会を2月に開催し、研修成果として授業を公開する。

教員の授業改善の意識は、効果的なICTの活用や思考の深まりを意識した授業づくりに広がっている。これが今後、取り組むべき課題である。

7 防災対策について

沿岸部に立地する学校として、東日本大震災を教訓に、大規模地震 津波発災時の人的被害ゼロを目標とし、年3回の屋上避難訓練等(うち1回は抜き打ち)を計画・実施している。

【令和5年度】

第1回	4月19日(水)	屋上へ避難するための避難経路の確認と基本的な避難のルールを学習した。
第2回	8月30日(水)	防災講座を受講し、災害への対応と備えについて学習した。
第3回	3月8日(金)	非通知訓練(地震)を実施した。

防災だよりの発行	年2回発行	防災委員会の生徒が、地震や津波の知識に加えて、時季に合わせた防災情報を掲載した「防災だより」を作成し、全生徒に配布した。
防災備蓄品の整理	通年	日常の備えの重要性を考え、防災備蓄品の確認と整理を行った。

【令和6年度】

第1回	4月10日(水)	屋上へ避難し、避難経路の確認と基本的な避難のルールを学習した。
第2回	8月29日(木) 防災講座	自衛隊静岡地方協力本部から講師を招き、「自分たちができる対策」について講話を計画したが、大雨の影響で休校となり、実施できなかった。
第3回	3月12日(水)	非通知訓練(地震)を実施した。
防災だよりの発行	年2回発行	防災委員会の生徒が、地震や津波の知識に加えて、時季に合わせた防災情報を掲載した「防災だより」を作成し、全生徒に配布した。
防災備蓄品の整理	通年	日常の備えの重要性を考え、防災備蓄品の確認と整理を行った。

8 学校開放について

本校では運動場、体育館などの施設を学校施設開放委員会に申請のあった団体に開放している。

定期的に利用している団体は地域及び本校OBのスポーツ愛好者などである。なお、利用者からは、電気料を徴収している。

施設名		令和6年度		備考
		利用日数(日)	利用者数(人)	
体育館	バレーボール	148	1,976	電気料徴収金額 94,828 円
	バスケットボール	53	562	
運動場	ラグビー	126	2,563	
校舎	管弦楽	5	50	
計		332	5,151	

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条、第5条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第45条、第46条、 第47条、第48条、第49条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立中学校学則 中学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令 いじめ防止対策推進法
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 義務教育国庫負担法（第2条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条） 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条）

学校施設等の概要

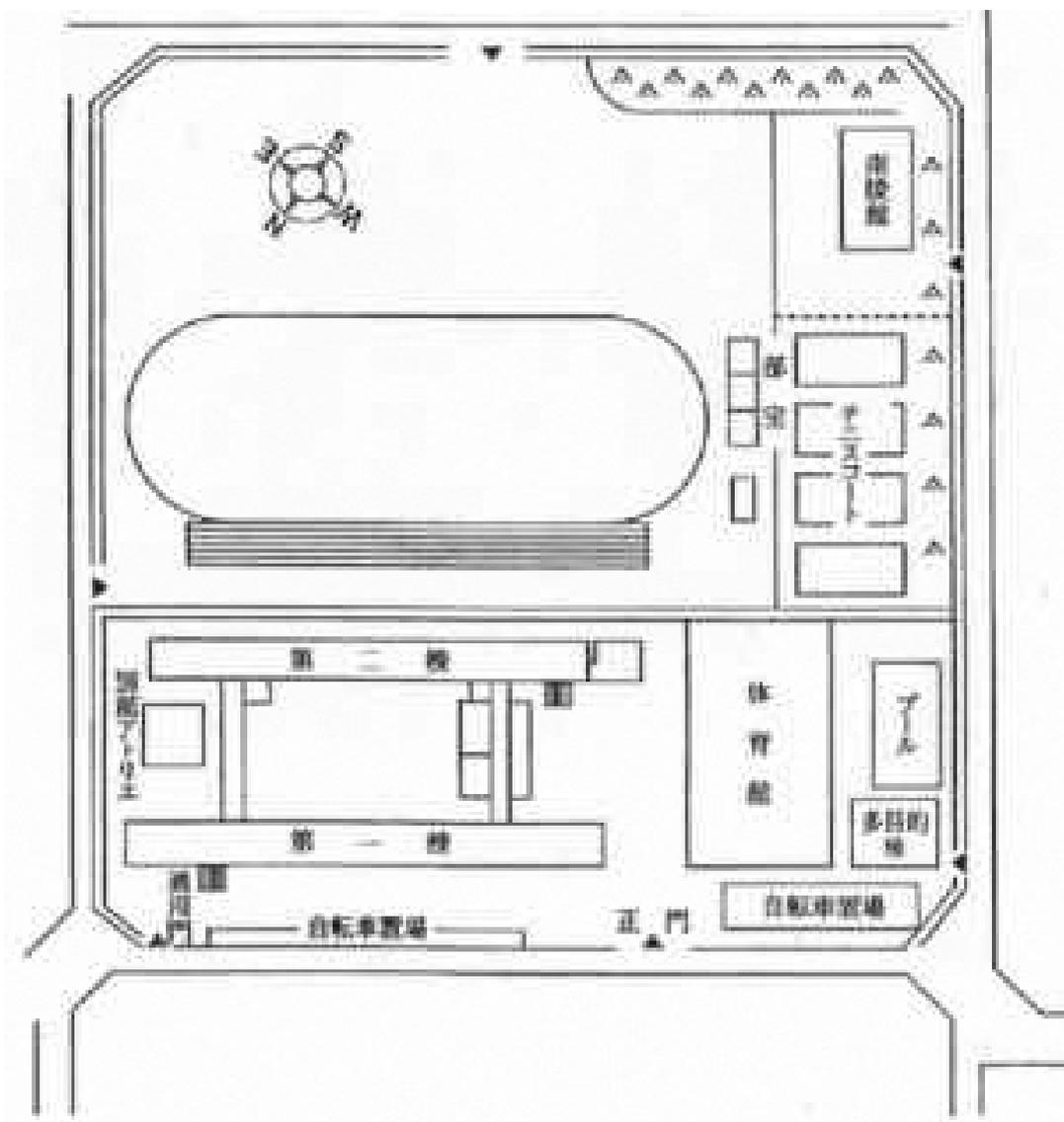
1 面積及び所有区分

(令和7年1月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	39,601.53	39,601.53					
内 訳	校舎敷地	13,506.78	13,506.78				
	運動場敷地	26,094.75	26,094.75				
	その他の敷地						
実 習 地							
内 訳	田						
	畑						
	茶 園						
	果 樹 園						
演 習 林							
校 舎	建 2,899.06	2,899.06					
	延 7,547.83	7,547.83					
体 育 館	建 1,940.16	1,940.16					
	延 2,510.37	2,510.37					
武 道 場							
その他の建物	建 1,674.72	1,636.35			38.37		
	延 1,834.66	1,796.29			38.37		
寄 宿 舎							
生 活 館	建 491.28				491.28		
	延 1,059.39				1,059.39		
プ - ル	1	1					25m 7コース
職 員 住 宅							

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	39,601.53m ²	7,547.83m ²	26,094.75m ²
県平均	45,574.48m ²	9,807.98m ²	22,506.84m ²

在 籍 生 徒 調

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

学年	区 分		定員	男子	女子	計	
1 年	入 学 者		105	41	64	105	
	3	増 加					
		減 少					
	現 在				41	64	105
2 年	入 学 者			105	44	61	105
	2	増 加					
		減 少					
	2 年時当初				44	61	105
	3	増 加					
		減 少					
現 在				44	61	105	
3 年	入 学 者		120	31	77	108	
	元	増 加					
		減 少					
	2 年時当初				31	77	108
	2	増 加					
		減 少					
	3 年時当初				31	77	108
	3	増 加					
減 少							
現 在			31	77	108		
合 計			330	116	202	318	

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
学 科 別						
生徒定員 (A)		120	120	105	105	105
募集者数 (B)		120	120	105	105	105
志願者数	男	38	31	54	63	23
	女	74	78	70	93	60
	計(C)	112	109	124	156	83
受検者数	男	38	31	54	63	23
	女	74	78	70	92	60
	計(D)	112	109	124	155	83
合格者数	男	37	31	44	41	23
	女	73	77	61	64	60
	計(E)	110	108	105	105	83
志願倍率 (C)/(B)		0.93	0.91	1.18	1.49	0.79
受検倍率 (D)/(B)		0.93	0.91	1.18	1.48	0.79
入学者数	男	36	31	44	41	23
	女	73	77	61	64	60
	計(F)	109	108	105	105	83
充足率 (F)/(A)		0.91	0.90	1.00	1.00	0.79

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和 7 年 1 月 31 日 現在) (単位 : 人)

市町名	旧清水市	旧静岡市	富士市	焼津市	藤枝市	富士宮市	その他	合 計
生徒数	198	74	24	9	3	4	6	318
構成比%	62.3	23.3	7.5	2.8	0.9	1.3	1.9	100

(2) 通学方法 (令和 7 年 1 月 31 日 現在) (単位 : 人)

区 分	自転車	J R	バ ス	電 車	徒歩他	合 計
生徒数	133	99	60	14	12	318
構成比%	41.8	31.1	18.9	4.4	3.8	100

2 部 (クラブ) の加入状況

(令和 7 年 1 月 31 日 現在) (単位 : 人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		10	6	/	16
男子	1 年	20	21	0	41
	2 年	28	16	0	44
	3 年	23	8	0	31
	計 (A)	71	45	0	116
	構成比%	61.2	38.8	0.0	100%
女子	1 年	30	34	0	64
	2 年	36	25	0	61
	3 年	38	39	0	77
	計 (B)	104	98	0	202
	構成比%	51.5	48.5	0.0	100%
合計	(A + B)	175	143	0	318
	構成比%	55.0	45.0	0.0	100%

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料等

区 分	令和5年度	令和6年度 令和7年1月31日現在
	件 数	件 数
入学検定料	156	0

預 金 調

(令和7年1月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
清水銀行 三保支店	無利息型 普通預金	2125921	静岡県立清水南高等学校中等部 資金前渡者 山田 正訓	0	給 与
清水銀行 三保支店	無利息型 普通預金	2125930	(自振口)静岡県立清水南高等学校中等部 資金前渡者 山田 正訓	0	社 会 保 険 料
残 高 合 計				0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和4年度	令和5年度	左のうち、4年度からの繰越額分
(12) 委託料						0	
計					0	0	0
(14) 工事 請負費						0	
計					0	0	0
(16) 公有財産 購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	01一般会計	11 教育費	05 高等学校費	02 高等学校管理費	140,800	0	
計					140,800	0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金						0	
計					0	0	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年1月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料						
計					0	0
(14) 工事 請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費					0	0
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金					0	0
計					0	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						
計					0	0

主 要 備 品 調

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX - 5A	週5日(年間197日) 音楽科授業用	15.11	円 1,169,700
2	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX - 3A	週3日(年間110日) 音楽科授業用	15.11	1,041,600
3	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX - 3A	週3日(年間110日) 音楽科授業用	15.11	1,041,600
4	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX - 3A	週3日(年間110日) 音楽科授業用	15.11	1,041,600
5	02-02	放送装置	イベントアンプ WA - 420	週3日(年間112日) 表現授業用	15.3	453,600
6	06-09	木工用機械	丸のこ昇降盤(開放型)	週1日(年間39日) 技術科授業、木工実習用	15.3	425,250
7	01-13	その他の厨房器具	製氷機	夏季は毎日、その他は 週2~3日(年間220 日)病気怪我の治療用	17.8	344,400
8	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫(牛乳保冷庫) MR - 75	毎日(年間145日) 給食牛乳用	15.1	268,800
9	04-01	滅菌消毒機器	滅菌消毒機器	月2回(年間40日) 保健衛生用	23.3	248,850
10	01-07	表紙所機	表紙所機	毎日(年間220日) 事務処理用	23.12	236,250

職 員 調

（令和7年4月1日現在）

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住所	勤務 年数		摘要
	校 長	山 田 正 訓					
1	教 頭	小 田 通 也					
	教 頭	猪 俣 孝 幸					
	事務長	石 川 朋 子	事務統括				
2	教 諭	油 井 幸 美	国 語				
3	教 諭	中 村 友 香	国 語				
4	教 諭	白 鳥 亮	社 会				
5	教 諭	漆 畑 元 基	社 会				
6	教 諭	久 住 俊 介	数 学				
7	教 諭	小 野 寺 主 寛	数 学				
8	教 諭	竹 井 徹	数 学				
9	教 諭	日 向 裕 介	数 学				
10	教 諭	藤 浪 万 知 子	理 科				
11	教 諭	石 神 克 海	理 科				
12	教 諭	望 月 翔 平	保健体育				
13	教 諭	土 肥 正 通	美 術				
14	教 諭	藤 浪 智 久	英 語				
15	教 諭	萩 原 彩 子	英 語				
16	教 諭	吉 岡 文 子	英 語				
17	教 諭	金 野 陽 菜 子	英 語				
	教 諭	石 橋 芳 貴	国 語				
	教 諭	中 田 恭 輔	国 語				
	教 諭	遠 藤 大 隆	数 学				
	教 諭	佐 々 木 郁 実	数 学				
	教 諭	水 谷 陽 介	英 語				
	教 諭	村 上 勇	英 語				

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住所	勤務 年数		摘要
	教 諭	青 嶋 悠	英 語				
	教 諭	大 石 和 規	音 楽				
	教 諭	小 柳 久 仁 子	音 楽				
	教 諭	松 本 晶 則	保健体育				
	教 諭	大 石 な つ き	保健体育				
	教 諭	梅 田 静 子	保健体育				
	教 諭	巽 友 花	保健体育				
18	養護教諭	平 出 紗 弥					
19	主 任	小 長 井 大 暉	事 務				
	主 査	手 塚 麻 規 子	事 務				
	主 査	小 澤 香	事 務				
	主 任	長 田 実 穂	事 務				
職員38人（本務19人・兼務19人）					1	5	

任期付職員・臨時的任用職員・会計年度任用職員

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(臨)	遠藤 正也	数 学			
2	教諭(臨)	矢島 穂高	理 科			
3	非常勤講師	池谷 しのぶ	家 庭			
4	非常勤講師	中川 真美子	英 語			
5	非常勤講師	深澤 達也	音 楽			
6	非常勤講師	北島 光基	表 現			
	学校医	河野 明彦	内 科			
	学校医	大蝶 修司	耳鼻科			
	学校医	水野 和也	眼 科			
	学校歯科師	齋藤 彰	歯 科			
	健康管理医	河野 千恵	内 科			
	学校薬剤師	佐々木 雄史	薬剤師			

職員の年齢調

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上30歳未満	2 人	
30歳以上40歳未満	10 人	
40歳以上50歳未満	4 人	
50歳以上56歳未満	3 人	
56歳以上61歳未満	0 人	
61歳以上	0 人	
計	19 人	平均年齢 38.8 歳

健 康 管 理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容				
受 診 状 況	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">受診者数</td> <td style="text-align: right;">17 人</td> </tr> <tr> <td>職員数</td> <td style="text-align: right;">17 人</td> </tr> </table>	受診者数	17 人	職員数	17 人
受診者数	17 人				
職員数	17 人				
受 診 率	100%				
県平均受診率	100%				

(1) 未受診の理由
 育休中 1人
 休職中 1人

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	3(3)人
D 2		要経過観察	7(7)人
D 3		医 療 不 要	8(8)人
区 分 者 計			18(18)人
未 区 分 者 数			1(1)人
合 計			19(19)人

(1) 管理区分A～C 2 該当者
 に対する措置状況

(2) 未区分の理由
 ア 産休・育休 人
 イ 新規採用 人
 ウ 自己都合による未受診 人
 エ その他
 (休職中) 1 人